

## ◆ 夏宿事情－第1夏期隊員宿舎－

「1夏(イチツ)」。私たちはこう呼びます。この1夏の入口には「レークサイドホテル」という立派な看板が取り付けられています。そばに湖があるわけではなく、取水池があるので付けたネーミングと思われます。しかし、隊員は誰一人として、この名前で呼ぶことはありません。何故か。そう、どう見てもホテルとは呼べない代物。宿舎以外何物でもないでしょ。ホテルなんて、口が裂けても呼んでやるもんか。夏期作業に携わる隊員の意地？が見え隠れしています。定員は、48名（4人×12部屋）。しらせ接岸後は、しらせ乗員も交代で夏期作業に当たります。正面入口がしらせ乗員用、観測隊は右の入口です。階段下の桶で靴を洗い、玄関で靴と作業ズボンを脱ぎ、作業着およびヘルメットをフックにかけて入ります。1夏には、食堂、風呂、トイレ、洗面所、洗濯機などの水回りが完備されており、2夏住まいの隊員も食事等はこちらで取るようになっています。洗濯機は、1日6名までとなっており、下着類などの洗濯は入浴時に手洗いで済ませるときもあります。インターネットは無線LAN接続が可能ですが、昭和基地全体で3Mbpsしかないので、動画視聴などは禁止となっています。



例えるなら、1夏く集団宿泊訓練所



長靴と作業ズボンは一緒に脱ぐ



釘1本に作業着とヘルメット



食堂入口。連絡ボード。



食事風景。セルフサービス。



一度に4人まで



洗面所。洗濯干場。



サロン？狭いでしょ。

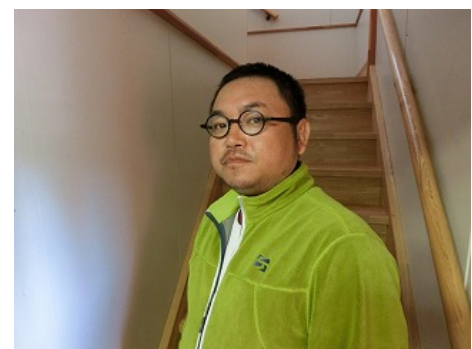


寝室。4人部屋。

## ◆ JARE57 隊員紹介

前田 淳 (39) 越冬隊 機械担当 熊本県出身  
株式会社日立プラントコンストラクション

県立水俣工業高校機械科を卒業後、現職場に就職。主に原子力発電所の定期点検業務にあたる。現在まで、柏崎、志賀、島根、福島原発を担当。48次隊から参加している南極派遣の話を上司から聞き、即座に立候補。南極では、造水装置、暖房設備、冷凍・冷蔵器のライフラインの保守・管理を担う。交換部品管理が多種多様な所が難点であり、やりがいのある所。昭和基地の第一印象は、目の錯覚あるいは気持ちの高ぶりからか、想像以上に小さく見えたとのこと（中に入ると広がった）。また、意外と空は変わらない。越冬中は、オーロラ観察や魚釣り、塩造りが楽しみ。また、持参の全周転カメラやドローンでの撮影にもチャレンジしたい。皆さんへは「計画ばかりでは進みません。やってみないと始まりません」とアドバイス。癒し系です。



1夏の守り神。前田隊員。